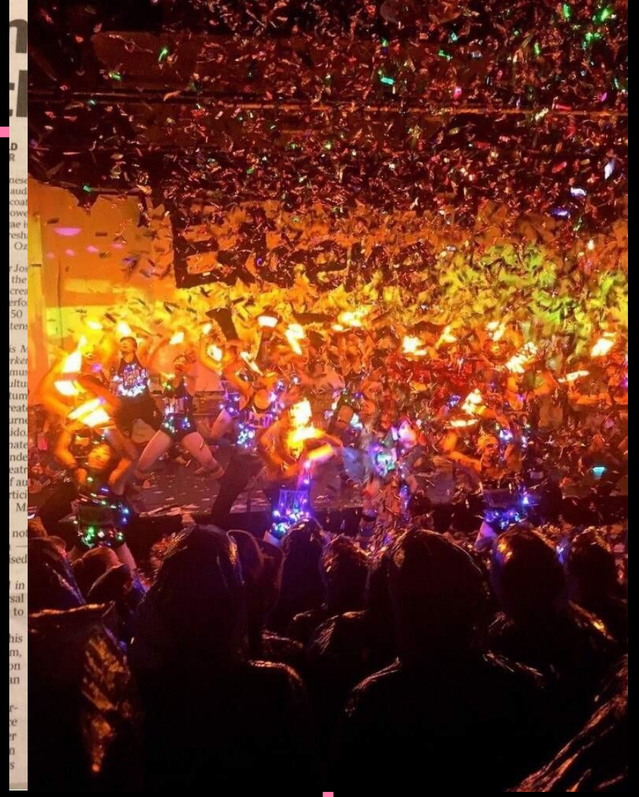
革命アイドル暴走ちゃん

Miss Revolutionary Idol berserker



日本のサブカルチャーやアニメソング、アイドルソングが轟音で鳴り響く場内。一見混沌としていながら、恐ろしいほど統制された30人超のキャスト達がサイリウムや多種多様な小道具を手に、所狭しと場内を駆け巡り、肉体の限界に挑まんとするほど激しく踊り、演じ続ける…。時には水やわかめ、さらには豆腐までが飛び交う衝撃の空間の中で、観客はびしょ濡れ（そして食べ物まみれ）になりながら恍惚とした表情でパフォーマンスを見届ける…。

「革命アイドル暴走ちゃん」は、客席と舞台が混沌の渦に巻き込まれながら一体化する衝撃のパフォーマンスを繰り広げる劇団です。

二階堂瞳子

北海道札幌市出身、1986 年 10 月 16 日生 演出家・振付家・俳優。桜美林大学総合文化学群演劇専攻卒業。

自身が学生時代に地下アイドルとして活動した経験からヲタク文化をアートに転化させる試みを始め、アイドルソングや、アニメ、ヲタクなどの現代日本を代表するサブカルチャーを取り入れた独自のメソッドを築きあげ、東京芸術劇場プロデュース作品やフェスティバル/トーキョー 11 公募プログラムなどへの参加でその注目度は高まり、2013 年夏に自身の作品がヨーロッパ 3 ヶ国(スイス、オランダ、ドイツ) から招聘され、 海外進出を遂げる。「驚きのないものに人は感動しない！」という信念の元、二階堂の 創作する作品（ 通称「おはぎライブ」）は、今の日本東京から派生した超濃密、超高速、 超過剰な自然現象的パフォーマンスであり、現代に生きる若者の身体からカオティッ クかつ狂騒的なエネルギーで発散され、舞台上で強烈な一体感を生み出す。生き急ぐ サブカルチャー文化を起点とした“まとまりのないぐちゃぐちゃなもの” そのものを“芸 術” として昇華し、情報過多で一見無秩序なカオスに見えるが、その作品は独自の演 出メソッドによる規律とルールによって支配され、同時多発的で躁病的、そして氾濫 する情報を観客に提示する。

国内では、村上隆主宰『GEISAI＃20』で審査員を務めるほか、CM「Google Android」、SMAP『Dear WOMAN』PV、TBS「アメージパング!」に出演し続けV6 にヲタ芸を教授するなど、その活動は多岐 に渡る。また二階堂自身は作品に出演しないにも関わらず、演出家として場内を一望 出来る脚立の上にそびえ立ち、過剰かつ爆裂なダメ出し行為はもはやパフォーマンス のように扱われ、その強烈なストイックさはある種見世物のように話題を集めている。

おはぎライブとは

●全容
プリセット、本編、アンコール、客出しのアーチで構成される。終始、日本のサブカルチャーやアニメソング、アイドルソングが轟音で鳴り響き、踊り続ける事で統制されたカオス空間を作り出す。
海外公演では 25 名程度の出演者を要し、ダンス、セリフを用いた演技表現 (日本語、英語、各国の言語)、
その中でも、〈ヲタ芸〉という日本のギーク文化を作品に取り入れた演出は暴走ちゃん独自のもので ある。衣装は、まるでアニメやマンガのキャラクターが飛び出してきたかのようにカラフルでポッ プに揃えている。
舞台奥と側面にプロジェクターから作品の世界観に合わせた映像を投影。最近では客席側面にも映像を投影する。
「現代」の「日本」、「東京」に生きる「等身大の若者」視点での創作を心掛けている、垣根を越えた 観客参加型のダンスパフォーマンスである。

●プリセット
暴走ちゃんの特徴として、本編に入る前のプリセット (出会い) からパフォーマンスが始まっていることが挙げられる。
25 名の出演者が、五分程度の時間で指定の場所へ大量の小道具をセットする。何もない空間に物が溢れていく変容が生まれる。
客席にも侵入するため、逃れられないコミュニケーション、愛情溢れるコミュニケーション (おもてなし)、わがままなエゴイズムの表現が展開される。
出演者とって、丁寧に観客の状態、雰囲気を把握する時間でもある。その情報から、相手が呼応するようなパフォーマンスを瞬時に導きだして行っていく。

●本編
毎公演、ひとつのモチーフを掲げている。(過去の例 : 震災、命、AI の進化、オリンピックなど)
数珠つなぎの物語というものではなく、様々な暗喩、媒体、表現を用いてダンス、演技表現を行う。
恋愛のような身近なものから、現代社会の縮図のような大きな問題定義まで、内容は多岐に渡るが、全ての発端は掲げたモチーフを通して発信される。

国と国。観客と演者。隣に座る観客と観客。貴方と私。自分自身と価値観。「あらゆる壁の崩壊・そ の先にある出会い」がどの作品にも共通する重要な目的である。その為本編には、求めあうが分か り合えない「人間同士のパラドックス」を表現した演出が必ず挿入されている。

また本編の特徴として挙げられるポイントは、二つある。
一つ目は、小グループでいくつかに分かれた出演者達が、「同時多発的」に表現することである。
二つ目に、50 曲余りの楽曲をリミックスして作られた演武曲ひとつひとつに、それぞれ異なる世界が存在しているという部分である。

上記にある全てを舞台上に発散させる事により、観客が感性で作品を解釈できる点が、国を問わず高く評価を受けている。
(そこには性別、宗教、文化、年齢、人種、障害すべての影響を受けないものが存在している)

●アンコール
本編後に行われるヲタ芸で構成されたパフォーマンス。最後に舞台と客席の転換が行われる。ヲタ芸は、日本の客席から生まれた観客文化であり、応援文化である。会場の一体感と共に、観客も一人の発信者であると気付かせるメッセージが込められている。
観客と出演者の関係性が融解することを体験させ、特別な時間を提供する。ヲタ芸というサブカルチャーの象徴を用いる事によって誰しもが持つ、マイノリティーな部分を全て肯定するアート作品である。

●客出し
約 40 分の嵐のような時間から、観客は日常へ戻ったとき、何を感じるのか。その時に生まれる感情や心に何が残るのか。そこまで計算されデザインされた、観客をも巻き込んだ演出で締めくくる。
暴走ちゃんは最後まで作品を通して、貴方にとって革命とは ? 暴走とは ? サブカルチャーとは ? 気にしていたコンプレックスって一体なんだったの ? という事を問いかけ、繋がろうと声を上げ続けている。

●掲載履歴

2019.8.21　オリコンニュース【特別対談】二階堂瞳子×チームラボ代表・猪子寿之、革命アイドル暴走ちゃんや日本のエンターテインメントについて語る
2019.7.11　おたぽる掲載　革命アイドル暴走ちゃん『暴走ちゃんの暴走』編――王子で観られるゼロ年代インターネット
2019.3.12　スパイス掲載　松竹が型破りのパフォーマンス劇団「革命アイドル暴走ちゃん」とコラボ、制作に全面協力

2016.10.16 しらべぇ掲載　” 人智を超えた「革命アイドル暴走ちゃん」ステージの超カオス”

2015.4.27　国際交流基金アーティストインタビュー “狂騒的パフォーマンスに込めた 二階堂瞳子のサブカル魂”
2015.5.12　はまれぽ .com “奇抜すぎる謎の集団！ゲリラで登場する「革命アイドル暴走ちゃん」って何者？” はまれぽ編集部の皆さんが革命ア イドル暴走ちゃんの稽古場にいらっしゃいました！はまれぽ編集部の方の目に、我々暴走ちゃんはどのようにうつったのか。貴重な稽古場の様子 がご覧いただけます。

その他、国内メディア掲載では「美術手帖」、「演劇最強論」、「チケットぴあ」、「演劇ぶっく」、「公明新聞」、「ユリイカ」、「シアターガイド」

「北海道新聞」「GEISAI 実行委員会」「TV Bros.」がある。

海外メディア掲載では「MOMA」、「ドイツ国営放送 nachmagazin ハンブルク公演取材放送」、「雑誌 TANZ 表紙」、「globe 劇評掲載」、

「Hamburg morgenpost 新聞掲載」、「DerSpiegel 紹介記事」、「ベルリン州営テレビ rbb 局にてベルリン公演取材放送」がある。

●メディア露出

2015- TBS 系列アメージパング！　出演
2015 年 8 月　ドイツのドキュメンタリーに出演ドイツのテレビ局が作成したドキュメンタリー作品に革命アイドル暴走ちゃんが取り上げられまし た。2016 年春に敢行した一ヶ月のヨーロッパツアー。その中からバービカンセンターで行われたロンドン公演の様子をご覧頂けます。

2015 年 8 月　吉田尚記 d スタジオ supported by docomo に出演ドコモが提供している便利な機能や日常を楽しくするエンタメサービスなど多彩 なコンテンツを駆使して、「面白いことをやっちゃおう！」という何が起こるかわからないカオスな生放送！

『吉田尚記 d スタジオ supported by docomo 第 9 回』出演

2015 年 6 月「Google Android」TV CM New Android 登場篇出演
2014 年 9 月　ドイツの国営放送に出演 Internationales Sommer Festival Kampnagel(ドイツ ハンブルク公演) に参加した革命アイドル暴走ちゃ んがドイツの国営放送から取材を受けました。公演初日の様子が放送されております。

2016 年 6 月 イギリス・ロンドン リフトフェスティバル公演では BBC（英国放送協会）で二階堂の演出家半生がラジオドラマ仕立てで放送され ました。

2019年10月 オーストラリアのOzasiaFestivalでは7NEWS Adelaideで天気予報の生放送に出演しました。

その他、「ナタリー」「劇ぴあ」「エンタメ特化型情報メディア スパイス」「舞台制作 PLUS」「PL TIMS」「しらべえ」「Peatix」

●活動履歴

【2008 年】

「バナナ学園純情乙女組」旗揚げ

【2011 年】

・芸劇 eyes 番外編『20 年安泰。』『バナ学 eyes★芸劇大大大大大作戦!!!!』

6 月 24 日～ 27 日@水天宮ピット 大スタジオ

・フェスティバル / トーキョー 11『バナ学バトル★☆熱血スポ魂秋の大運動会 !!!!!～東京大会～』

10 月 26 日～11 月 1 日@シアターグリーン　BIGTREE THEATER

【2012 年】

ニューヨーク公演『We are BANANA!!!!! FROM NEO★TOKYO made in Dangerous JAPAN!!!!!』

バナナ学園純情乙女組

『バナナ学園大大大大大卒業式～サヨナラ❤バナナ～』

12 月 28 日～31 日@王子小劇場にて解散

【2013年】

・4 月 前団体を踏襲し、新メンバーを迎え「革命アイドル暴走ちゃん」旗揚げ

・8 月 スイス・オランダ・ドイツから招聘を受けて、革命アイドル暴走ちゃんの旗揚げ公演及びツアーを実施。

【2014 年】

・ドイツ公演で国営放送 TV の特集が組まれ、
ドイツ語圏のダンスマガジン (月刊誌” TANZ”) の 8 月 9 月合併号の表紙を飾る。

【2015年】

・5 月にドイツ・ミュンヘン、オーストリア・クレムスからの招聘を受ける。同年 9 月に初のアジア―ツアーを決定。オーストラリア・アデレードからのメインプログラムで招聘される。11 月にあうるすぽっと提携公演を行った。オーストラリア公演では、暴走ちゃんの写真でラッピングされたトラムがアデレードを走り、現地の新聞シドニーモーニングヘラルドに「日本の若者文化と怒りで、観客を爆発させる」という劇評が掲載されるなど、評判を呼んだ。

・オーストリア” donaufestival” 公演 で「the Otto Retter Theatre of Cruelty Award 2015」を受賞。

【2016年】

・6月　ドイツ、ポーランド、イギリスから招聘を受けロングランツアーを実施。「崩壊と再生・再構成」をテーマに上演。また、LIFT Festival(イギリス・ロンドン)では、The Children’ s Choice Awards で(障がいのある子ども審査員からのアワードをもらうイベント)、子供たちのネーミングセンスあふれる賞を多数受賞。

・10 月に千葉県の柏の商店街が主催するアートライン柏に招聘。200m の商店街でパレード形式の作品を上演。

国内でも、劇場内にとどまらずライブハウスやプロレスリング、アイドルイベントへの出演、ドキュメンタリー上映会、野外ライブ、中高生100.人超を対象にした大規模なヲタ芸ワークショップや高校演劇合宿の指導にもあたる。

【2017年】

・9 月　藝祭 2017「天下の藝大暴走カチコミよっしゃ行くぞー！」@ 東京藝術大学 総合工房棟前メインステージ

・8 月～ 11 月　　展示・ゲリラパフォーマンス　黄金町バザール 2017-Double Facade 他者と出会うための複数の方法

「暴走ちゃん展示してみた。」

@ 高架下スタジオ Site-A ギャラリー

【2018年】

・ロッテルダム国際映画祭 thematic programme Maximum Overdrive 招聘公演「Totes Adorbs❤Hurricane」

・TPAM 2018 in YOKOHAMA TPAM フリンジ参加作品「萌え萌え❤ハリケーン」@ 横浜人形の家あかいくつ劇場

・6 月「暴走 Night vol.2」@ 三田バル

【2019年】

・2月～4月　　第22回岡本太郎現代芸術賞入選作品『暴走の肉塊』川崎岡本太郎美術館

・7月　革命アイドル暴走ちゃん 日豪公演 2019『暴走ちゃんの暴走』花まる学習会　王子小劇場

・10月　革命アイドル暴走ちゃん・オーストラリアOzAsia Festival 2019招聘公演『Berserker × Berserker』Nexus Arts

【2020年】

・東京都文化活動支援事業「アートにエールを！東京プロジェクト」掲載動画作品

革命アイドル暴走ちゃん『安心、安全な3密騒ぎ！！！！！』

CONTACT：革命アイドル暴走ちゃん

mail：office@missrevodolbbbbbbbberserker.asia

OzAsia Festival
Zugabe

Hope you enjoy it!
Hope you enjoy it!